

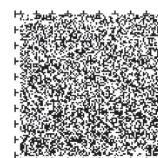
1 認知症とは…

いろいろな原因で脳の細胞が損傷を受けたり、働きが悪くなることで、認知機能[※]が低下し、さまざまな生活のしづらさが現れる状態を指します。

(※認知機能とは、ものごとを記憶する、言葉を使う、計算する、問題を解決するために深く考えるなどの頭の働きを指します)

◆ 主な症状について

中核症状	症状の説明	具体例
1 記憶障害	脳の細胞が損傷を受け、その働きが失われてしまうため、覚えられない、すぐ忘れるようになります。	<ul style="list-style-type: none">● 新しい出来事が覚えられない● 数分前のことを忘れてしまう● 同じ物を何度も買ってしまう
2 見当識障害	時間・場所・人物など、基本的な状況を把握することができなくなります。	<ul style="list-style-type: none">● 時間や季節感の感覚が薄れ、何回も日付や時間を聞く● 知っているはずの道で迷う● 目の前の人や物が「誰」なのかわからなくなる
3 理解や判断能力の障害	ものごとを考えたり判断するのに支障が出てきます。	<ul style="list-style-type: none">● 考えるスピードが遅くなる● 交通機関の自動改札、銀行のATMなどが使えない
4 実行機能障害	頭の中で計画をたて、物事を順序良く進めることができなくなります。	<ul style="list-style-type: none">● 料理で、必要な材料を買い物し、順序よく作れない● 旅行の段取りができない(日程・宿泊先や交通機関の予約などができない等)



加齢による「もの忘れ」と 認知症の「もの忘れ(記憶障害)」との違い

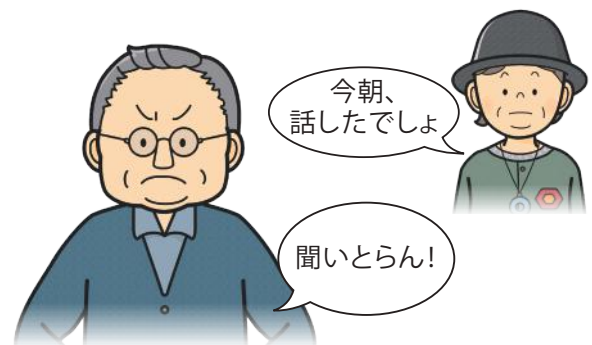
加齢による「もの忘れ」は、体験の一部を忘れますが、忘れていた自覚があります。しかし、認知症の「もの忘れ(記憶障害)」は、体験全体を忘れてしまうので、もの忘れの自覚がなく、日常生活に支障をきたします。

加齢による 「もの忘れ」

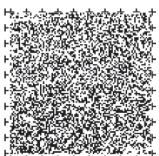


- 体験や出来事の一部を忘れるが、ヒント等があれば忘れた部分を思い出すことができる。
- もの忘れをしている自覚がある。
- 人物や時間・場所までわからなくなることはない。

認知症の 「もの忘れ(記憶障害)」



- 体験や出来事の全てを忘れてしまうため、ヒントがあっても思い出すことができない。
- 新しいことが覚えられず、もの忘れの自覚がない。
- 人物や時間・場所までわからなくなることがある。



認知症に早く気づくことが大事です

認知症は治らないから、医療機関に行っても仕方がないと考えていませんか？
認知症も他の病気と同じように、早期診断と早期治療が非常に大切です。

(22・23ページ「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」参照)

◆ 早く気づくことが大事なわけ

知って安心
認知症

1 治る認知症や一時的な症状の場合があります

認知症を引き起こす病気には、早めに治療すれば改善が可能なもの(正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、甲状腺機能低下症など)もありますので、**早めに受診をして原因となっている病気を突き止めることが大切です。**

2 進行を遅らせることが可能な場合があります

アルツハイマー型認知症は早い段階からの服薬等の治療や、本人の気持ちに配慮した適切なケアにより、進行をゆるやかにすることが可能といわれています(下図参照)。

3 今後の生活の準備をすることができます

早期の診断を受け、症状が軽いうちに、ご本人やご家族が認知症への理解を深め、病気と向き合い話し合うことで、今後の生活の備えをすることができます。**介護保険サービスを利用するなど生活環境を整えていけば、生活上の支障を減らすことも可能になります。**

